

COUNTRY DATA

ウズベキスタン

日本

ウズベキスタン共和国
人口:約3,800万人(中央アジアで最大)
面積:44万9,000km²(日本の約1.2倍)

中央アジアに位置し、古くからシルクロードの要衝として栄えた国です。イスラム建築が点在する歴史的な街並みの他「プロフ」と呼ばれる炊き込みご飯などの食文化も魅力です。

親日国としても知られ、家族思いで責任感が強い国民性と、おもてなしの文化が根付いています。



リシタン地区

リシタン地区はリシタン市と24の町村で構成され、約22万人が暮らしています。

千年の歴史を誇る「陶器の街」として知られ、この地で作られる「リシタン焼き」は、地元の植物灰を原料とした天然の釉薬による鮮やかな青色が特徴です。「リシタンブルー」と称される色彩と、特徴的な模様で描かれた美しい器は、世界中の人々を魅了し続けています。



リシタン地区

首都タシケント



リシタン国際陶器センター

INTERNATIONAL
CERAMIC
CENTER

XALQARO
KULOCHILIK
MARKAZI

舞鶴市とリシタン地区が姉妹都市提携

時を越え、未来へと紡ぐ新たな絆

令和8年5月27日、舞鶴市はウズベキスタン共和国リシタン地区と姉妹都市となりました。姉妹・友好都市の提携は、ナホトカ（ロシア）、大連（中国）、ポーツマス（イギリス）に続く28年ぶり4例目です。提携を機に今後さらなる交流を深めていきます。

《文化・国際課、引揚記念館》

◆ウズベキスタンとの交流

舞鶴市とウズベキスタン共和国の交流の原点は、戦後の抑留と引き揚げという歴史的な縁にあります。平成28年、日本人抑留の歴史を伝える「タシケント日本人抑留者資料館」の創設者、故スルタノフ・ジャリル館長が引揚記念館を訪問。

これをきっかけに、東京2020オリンピックのホストタウンになるなど、スポーツや文化を通じ、お互いの絆を深めてきました。

◆リシタン地区との絆

リシタン地区との交流は、令和元年に同地区で無償の日本語学校「Noriko学級」を運営するナジロフ校長が舞鶴市を訪問したことから始まりました。その後、舞鶴市民訪問団の派遣などを経て、当時のリシタン市長との間で「人材育成交流に関する覚書」を交換しました。

令和4年からは同級で日本語や日本文化を学んだ若者たちを、京都職業能力開発短期大学の留学生として受け入れています。これまで13人の

留学生を迎え、卒業生は全員舞鶴市内の企業で技術者として活躍しています。地域行事や消防団活動にも参加するなど、地域社会を支える大切な存在となっています。



地域行事に参加する留学生

フェルガナ州とも友好交流協定を締結し、より広域的な連携の基盤を築きました。

姉妹都市としての歩みを支える根幹は、市民一人ひとりの「心と心の交流」です。今後は、これまで育んできた両地域の温かい絆を基礎に、平和学習や人材交流での連携をはじめ、教育、文化、スポーツなど幅広い分野へと交流を広げていきます。

◆姉妹都市協定締結と未来

こうした交流により深まった絆を背景に、5月27日、市制記念日に合わせて舞鶴市代表団がリシタン地区を訪問。姉妹都市締結協定書の署名式を行いました。

また、同地区が属する



姉妹都市提携の署名式の様子



レスリング選手団との合同練習の様子